

成島毘沙門堂(花巻市)

なるしま

ここが成島毘沙門堂



振り返ると、登って来る参道が見える

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



ここをまっすぐ登っていくと毘沙門堂に至るようだ



その前にこの参拝順路に従って左手に進もう

社殿祈禱

- ・各種祈禱申し受けます
- ・所要時間20分
- ・係員にお申し出下さい



県指定重要文化財
三熊野神社社殿

全国泣き相撲大会 900名余出場



市指定無形文化財
泣き相撲土俵斎場



国指定重要文化財
兜毘沙門天立像

境内のご案内

- ・神職が案内、説明します
- ・お一人100円(護持費)

高さ 4m73cm
日本一の毘沙門天です



国指定重要文化財
毘沙門堂



手水舎

手・口を
すすぎます

参拝順路

こちらからお参りください

○現在地

お帰りは
こちらから

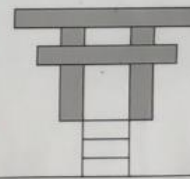
- ・車のお祓い
- ・忌明のお祓い
- ・祭典執行祓



社所



泣き相撲資料館・総合受付



駐車場



兜殿館

こちらから三熊野(みくまの)神社社殿へと向かう

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



正面が三熊野神社社殿



本殿は室町時代に造営されたと推定されるらしい

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



その由緒書き/岩手県指定文化財/征夷大將軍坂上田村麻呂がエミシ征伐の時、この地で戦勝祈願をしたところ、願いが叶い、三熊野神社を建立したと伝わるらしい

岩手県指定有形文化財 **三熊野神社**

三熊野神社の本殿は、向拝流棟造りで、御祭神は熊野の三神で伊弉冉之命、事解男之命、速玉男之命を祀っています。

言い伝えによると、延暦年中（七八二〜八〇六）征夷大將軍坂上田村麻呂がエミシ征伐の時、この地で紀伊の熊野三山に戦勝祈願をしたところ難なく平定することができ、熊野三山の神威を崇び熊野の三神を勧請し、三熊野神社を建立したと伝えられています。康平五年（一一〇六）に源義家が安倍貞任を追撃しここに立ち寄った時、熊野神社に鎬矢を収めて戦勝祈願をしたところ安倍氏を破り奥羽を平定する事ができたと伝えられています。

中世には、和賀領主より社領七十石を寄進され、元和四年（一六一八）に南部利直公より社領二十三石をいただいています。

県内では数少ない古代建築様式をもつ建造物であることから昭和五十四年に県の有形文化財に指定されています。

左手前が拝殿/右奥が本殿



拝殿の懸魚/変わったデザインである





これは拝殿の向拝部分



こちらが本殿/庇や向拝の虹梁の木鼻に見られる絵様彫刻に室町時代の地方的作風が窺えると云う



ご神木の切り株



その右横には相撲の土俵が・・・/ニュースでも知られる「全国泣き相撲大会」が行われる場所のようだ
([クリックしてビデオを見る](#))



顕彰碑



頭彰碑

全国泣き相撲大会は、本年平成二十九年を以て、第三十回の記念すべき佳日を迎えました。第一回大会からの出場豆力士は、一万八千人を数えました。平成四年には、第五十八代名横綱、千代の富士貢氏が土俵に立ちました。遺憾ながら平成二十八年に逝去されました。偉功として永久に敬称するものです。

又、千代の富士の兄弟子、元幕内力士、影虎関は、第一回大会から三十年もの永きに渡り立行司として土俵に立ち勝負を裁き続けた功績を称えるものです。

平成二十九年五月吉日

三熊野神社 宮司

東和町指定無形民俗文化財

くまのしんじや
熊野神社十二番角力式
すもうしき
(泣き相撲)

ここで行われる泣き相撲は、古くから三熊野神社の特殊神事で、正式には九月の例祭に行う十二番角力の式の事を言います。

言い伝えによると、延暦年中(七八二～八〇六)
坂上田村麻呂サカノウラベマロがこの地で部下に相撲を取らせたのが始まりと伝えられています。その後、猿ヶ石川を境とした南・北成島の青年(二十二歳)による相撲は、勝利した方に豊作をもたらすという占いが流血の争いとなつたことから宝永三年(一七〇六)神社氏子の長男で、数え二歳の幼児による泣き相撲に変わり、南北にわかれ六組で取り組みを行い、先に泣き出した方が負けと定められています。現在は幼児成長と豊作を祈る行事として続けられています。

江戸時代から続く民俗行事であることから平成五年に町の無形民俗文化財に指定されています。

ここが土俵



その脇にある境内社



これは多聞天堂か・・・



さて、こちらが毘沙門堂/室町時代後期の建立と言われる/国重要文化財



「兜跋(とぼつ)毘沙門天立像」が安置されていた場所には、鏡が置かれている [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



国指定重要文化財 毘沙門堂

建物は寄棟造り、鉄板葺のやや大型の三間堂で廻り縁と向拝がついています。

堂内にあった毘沙門天は保護のため現在のは上の収蔵庫に安置され、建物だけが存在しています。

毘沙門堂は中世以降真言宗の成嶋寺が管理していて、この建物は延宝元年（一六七三）に修理をしています。が、各部の仕上げや建築手法などから室町時代後期に建立されたものと言われています。

言い伝えによると、毘沙門堂は坂上田村麻呂の建立あるいは慈覚大師草創と伝えられています。

近年まで堂内には、平安時代に造られた兜跋毘沙門天（国指定重要文化財）が祀られていたことから、古くからこの地域が重要な信仰の場所であったことがうかがわれます。

県内に残る数少ない中世建造物であることから平成

二年に国の重要文化財に指定されています。

その由緒書き/現在、本尊の「兜跋毘沙門天立像」は収蔵庫に安置されている

「毘沙門堂」と記された扁額



「山王天龍之命」の碑と傳説



傳説

この山王天龍は、この地から約二〇〇メートルほど離れた大蛇沼に棲み、水を司どり田畑能成に施与した大蛇である。

しかし現在は大蛇沼の水も喰れ数百年の歴史が流れている。伝えによると平安時代城主時の征夷大將軍坂上田村麿の手により大蛇は追われ名称蛇走の滝から猿ヶ石川に逃げ落ち大蛇は北上川を流れ下り、そのまま黒岩に身化したという生々しい伝説がある。現在の黒岩村落は、その旧の所在地であったという言い伝えは今でも残されている。

その後、大蛇沼の水は喰れ、庶民や民百姓は非常に困った時代があった。

大蛇もまた多難な幾歲月、年ふり年たけようよう大蛇沼に立ち戻り、「山王天龍之命」として庶民に福德を授け、現在毘沙門天の侍仏として仕え、貢献とされている。

山王天龍之命いわく

『大蛇沼の跡より、黒色の石を所持してわが身代りに信心深めたるものには、その靈驗(靈妙な力)ご利益を与えらる』との神通力のお告げがあったので、ここに慎み石碑を建立し、今後ますます庶民の育成と発展を祈念するものである。

昭和六十一年 丙寅七月吉辰

施主代表 谷口雅宣

この上の建物が収蔵庫で、「兜跋毘沙門天立像」が安置されている



手前のこれは宮沢賢治の詩碑



宮沢賢治詩碑「祭日〔二〕」案内

文語詩「祭日〔二〕」(文語詩稿未定稿)は、病氣平癒を願い、毘沙門天に詣でて、その脛に味噌を献上する母親たちの姿を描いている。この作品は、詩作日が大正13年(1924年)5月23日となっている口語詩「一三九 夏」を、文語詩化したものである。

詩碑は、花巻市母衣輪の川村健二氏によって、宮沢賢治の実弟清六氏に揮毫を依頼し、多田菊次氏が刻し、昭和34年9月21日に毘沙門堂脇に建立されたが、新収蔵庫への遷座にともない昭和62年6月7日現在地に移し替えられた。

詩文の「アナロナビクナビ」、「ナビクナビアリナビ」、「ナリトナリアナロ」、「アナロナビクナビ」は、法華経陀羅尼品(だらにほん)第26の中にある毘沙門天王が唱えた呪文、「阿梨(アリ) 那梨(ナリ) 菟那梨(トナリ) 阿那蘆(アナロ) 那履(ナレ) 拘那履(クナレ)」が途中よりおこされ、各連で尻取り式につながられている。

花 巻 市

こちらは御味噌奉納堂/昔、人々が祈願で毘沙門天の脛に味噌を塗って願い事をしたことに由来しているらしい



これが「兜跋毘沙門天立像」(国重要文化財)/寄木造の仏像/高さは4.73mで、毘沙門天像としては日本一の大きさと云う/
平安時代中期の作とされる/パンフレットより



毘沙門山の由来について

この毘沙門山は、今より約一千二百余年前
僧行基の開山、その後慈覚大師の中興で一山
十二坊、七堂大伽藍があり大いに栄えたと伝
えられている。

当山には桓武天皇の命により征夷大將軍坂
上田村麿が延暦二十一年（八〇二年）東北の
エゾ平定に際し、日本の北辺の守護神として
この地（成島）に毘沙門天を奉り、慈覚大師
によって開眼されたと伝えられる兜跋毘沙門
天立像（国重要文化財）がある。

この仏像は、毘沙門天一木造、日本一の巨
像（四、七三メートル）である。

又、この地の守護神であったとも伝えられる
檜一木造で木目の美しい伝吉祥天立像（国重
要文化財）がある。

さらに、承徳（承得）二年（一〇九八年）
に奇進したと記されていた伝阿弥陀如来立像
（県指定文化財）や室町時代の作と思われる
不動明王立像（町指定文化財）等がある。

一方建造物は、室町時代後期のおおらかな
様式をもつと伝われる仏堂毘沙門堂（国重要
文化財）や延暦年中に坂上田村麿將軍が建立
したと伝えられている三熊野神社本殿（県指
定文化財）等がある。

加えて、昭和四十七年には、裏山の沼坊よ
り境内まで続く水道管が発見され、国内でも
最も古いものだと注目されている。又、毘沙
門山の墓塚からは藤原時代のもものと思われる
鏡や壺等が出土し当時の毘沙門山の優れた文
化の面影が偲ばれる。

参考ホームページ

<https://butsuzolink.com/narushima/>

http://www.sukima.com/16_hanamaki01_02/14narushima.html

https://blog.goo.ne.jp/tako_888k/e/7cd50e3af5ceaadaf77f410019f0a846

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~mt2000/bishamon2.html>

